

畑作技術情報

発行 令和4年7月14日

第3号

たいせつ農業協同組合

営農部 農産販売課

本所 営農センター 57-2357

支所 営農センター 87-4111

秋播き小麦の収穫について

本年の秋播き小麦の生育は、平年並みの生育となっております。7月11日、12日に秋播き小麦作付ほ場よりサンプルを採取し、水分測定による刈取り適期調査を実施したところ、生育の早いほ場では7月17日頃から収穫適期（子実水分23%以下）になる見込みとなっております。ほ場によって生育差がありますので、熟度や水分を把握し収穫適期を見極めましょう。また、一日当たりの水分減少率は天候にも大きく左右されます。最新の気象情報を参考に適期刈取りに努めましょう。

日付	7月15日 (金)	7月16日 (土)	7月17日 (日)	7月18日 (月)	7月19日 (火)	7月20日 (水)
天気	曇時々晴	曇り	曇時々雨	曇一時雨	曇り	曇り
気温 (℃)	27 18	25 15	24 16	26 17	25 17	25 17
降水 確率 (%)	20	50	90	50	40	30

《子実水分の判定方法》

	子実水分	爪による判定	歯による判定
黄熟中期	35%	指先で押しつぶすことはできないが、爪では容易にちぎることができる	前歯で抵抗なく噛み切れる
黄熟後期	30%	爪でちぎることはできるが、若干抵抗を感じる	前歯で噛み切ることはできるが、若干抵抗を感じる

※上記判定方法は春播き小麦も共通となります。東鷹栖は営農センターに、鷹栖は営農センター・ライスセンターに水分計を設置しておりますのでご活用ください。

収穫のポイント！

- 成熟期（子実水分40%）になると一日当たりの水分減少率は大きくなり、高温・晴天時には5~6%近く低下する場合があります。ほ場の様子や熟度、水分値をこまめに確認しましょう。
- 倒伏や赤かび病が発生したほ場では品質の低下が懸念されますので、別刈りや別乾燥を実施し、他の小麦と混ぜないようにしましょう。
- 収穫作業実施前に畦畔の草刈りを実施しましょう。

農作業事故・熱中症に十分注意しましょう！

- 1人での作業時は行き先を伝えて、連絡が取れるよう携帯電話を持ちましょう。
- 休息を取りながらこまめに水分補給し、熱中症予防をしましょう。